

2015年1月7日
愛知製鋼株式会社

2015年 社長年頭挨拶(要旨)

“「まずやってみよう！」～意識から実践へ～” “I will 自変元正” まず自分から変えていこう！

愛知製鋼株式会社（本社：愛知県東海市、社長：藤岡高広）は、2015年1月7日（水）、当社体育館（愛知製鋼企業年金基金体育館 [アスカム]）において「社長年頭挨拶」を行った。

＜藤岡社長挨拶 要旨＞

皆さん、新年明けましておめでとうございます。創立75周年の節目の年を迎え、年頭にあたり、新たな決意と共にご挨拶をさせていただきます。

【2014年の振り返り】

昨年は会社や多くの社員が、数々の名誉ある賞をいただき、日頃 努力し続けた成果や企業姿勢を社会の皆様からご評価いただく喜ばしい出来事が多くあったと思います。また女性の活躍やグローバル化に向けた取り組みに加え、事業においてもトヨタの燃料電池車「MIRAI」や水素ステーションなどの次世代の素材に、当社のステンレス鋼が採用され、着実に当社の製品が原点回帰し、進化し続けていることを実感した年でもありました。

【当社を取り巻く環境】

急激な円安により、原材料やエネルギーコストの上昇など依然厳しい逆風が吹いていますが、このような厳しい環境の中でも我々は世の中の変化を確実に捉え、強固な経営基盤を構築し、ビジネスチャンスに繋げていかねばなりません。

昨年、私たちは2020年ビジョンを策定しました。「Company of Choice globally」を目指し、「愛知製鋼グループの商品を使っていれば安心・安全」という価値観の下、2020年に連結で売上3,000億円以上、営業利益200億円以上を達成するためにも、今年は非常に大事な年になるということです。

【2015年の挑戦】

そのような環境の中、私は昨年、皆さんに「原点回帰」により、生まれ持ったDNAを見つめ直し、今までとは違う発想で、より挑戦的に新しい価値の創造に取り組んで欲しい」と話をしました。今年はそれを踏まえた上で、大事な事を皆さんにお願いしたいと思います。それは、新しい価値を創造するために、意識から実践へと行動に移していく、

「まずやってみよう！」～意識から実践へ～ということです。

この言葉は、当社の創業に関わる先人たちが私たちに残した知見からとっています。

常に時代の流れや環境変化を読みグローバルな視点で積極的にチャレンジしていくことの大切さを「障子を開けてみよ、外は広い」と述べた豊田佐吉。

議論に時間を費やすことよりもすぐに実践することの重要性を「論より実践」と述べた豊田喜一郎。

どの先人も困難な状況に直面したときに、いたずらに議論をするのではなく「I will 自変元正」の強い意志で実践を試みることの大切さを教えています。

愛知製鋼の源流である豊田製鋼は、国内の鉄資源が不足していた時代に「よきクルマはよきハガネから」という創業者豊田喜一郎の熱い想いの下に設立されました。これからもこの歴史的な重みを原点として立ち返り、愛知製鋼らしく、素材メーカーであるDNAを活かし、素材を通して社会に貢献し、持続的に成長していかなければなりません。

そのためにも全ての人がリーダーであるという熱い想いを胸に、「I will」の強い意志で“考えて動く”「全員考動」で、厳しい環境を打ち破り、お客様や社会から「愛知製鋼グループの商品を使っていれば世界中で安心・安全」だと思っただけの会社を目指していきましょう。